

- 2面【学会の目・眼・芽】「人をつなぎ、広げる」  
雨宮 護 (公社) 日本造園学会幹事、東京大学空間情報科学研究センター助教  
【特集】日造協・技術委員会の取り組みについて
- 3面 2013 順天湾 (Suncheon bay) 国際花博覧会視察報告  
一般社団法人日本造園建設業協会 技術調査部長 野村 徹郎
- 4面【ふるさと自慢】福岡県 松本 吉廣 (内山緑地建設株)  
豊饒な筑後平野の中心「久留米市田主丸町」「ヒナモロコ」が国内唯一生息  
【緑滴】『鳥取流緑化スタイル』の発信 谷尾 壽嗣 (株)谷尾樹楽園)  
【賛助会員紹介】C・S・B (株)  
子どもの創造性を育てる砂場の浄化方法を開発  
〈ご案内〉日造協の団体保険制度 申込締切迫る  
【委員会等の活動】／【事務局の動き】

## 平成 25 年度 第 1 回通常理事会開催

# 5 議案を審議・承認



理事会の冒頭、あいさつする藤巻司郎会長

平成 25 年度第 1 回通常理事会は、5 月 29 日、14 時から都市計画協会会議室で開催した。冒頭、藤巻司郎会長があいさつ、議事では 5 議案を審議し、承認。そのほか、平成 25 年度通常総会に向けて「重点実践活動 2013 決議」(案)の説明、平成 25 年度造園建設功労者賞等の表彰についての説明を行った。また、通常理事会に先立ち同会場で、総支部長等会議を開催。総支部規程、支部規程の一部改正に対する意見と対応など、5 つの議題について意見を交わした。

平成 25 年度第 1 回通常理事会の冒頭、藤巻会長は、「一般社団法人に移行して 2 年度目を迎え、初めての本格的な事業計画及び収支予算について、先の理事会で承認をいただき、その円滑な事業執行に向けて各委員会・部会で審議をいただいている。先般、平成 25 年度公共工事設計労務単価が決定し、「造園工」では、全国平均で 14.5% 増となり、日造協がこれまで機会あるごとに実態に即した調査等による引上げ要望を行ってきた成果が現れた結果となった。日造協が全国組織として果たしてきた役割を再認識し、造園建設業の活動領域の維持・拡大に日造協会員が一致団結して取り組み、この厳しい状況乗り越えて時代の新たな要請に的確に応えていかなければならない。また、造園建設業に対する社会的な認知度の向上に向けて、企業経営の改善・合理化、若年入職者等の雇用環境の改善、要望・提言活動を通じた普及啓発活動、社会保険等未加入対策の推進等の課題の解決、さらには全国造園フェスティバルの開催等の機会を捉えて、生活密着型の産業であることをさらに強力にアピールすることが必要と考えている。本日は、24 年度の事業報告、決算及び通常総会

の招集等について、慎重なご審議をいただき、皆様方には一層のご支援とご協力をお願いしたい」とあいさつした。

議事では、①平成 24 年度事業報告及び決算について、②公益目的支出計画実施報告書について、③平成 25 年度通常総会の招集について、④登録基幹技能者講習実施機関の更新手続きについて、⑤街路樹剪定士資格制度関連規程の改正についての 5 議案を審議・承認した。

街路樹剪定士資格制度関連規程の改正については、受験前の研修を義務付けるため、これまでの受験資格に該当することに加え、「街路樹剪定士研修会を受講した者」を受験することができる者としたほか、学科、実技試験の一方の合格の有効期限を明記するなどを改正した。

また、「平成 25 年度通常総会決議事項として、「重点実践活動 2013 決議」(案)について審議。そのほか、報告事項として、①会長、業務執行理事の職務執行状況報告について、②支部長の辞任について、③平成 25 年度造園建設功労賞、業績表彰、勤続精励表彰の表彰についての説明を行った。

通常理事会に先立って行った総支部長等会議は、①総支部規程、支部規程の一部改正に対する意見と対応について、②(仮称)公園緑地樹木育成管理剪定士について、③街路樹剪定士資格制度関連規程の改正について、④「重点実践活動 2013 決議」(案)について、⑤総支部・支部交流会開催日程及び要望提言活動についての 5 つの議題を掲げ、連絡事項として、①総支部長、支部長合同会議及び技術情報共有発表会の日程について、②全国安全週間ポスターの配布についての説明を行った。

## 樹 林

### 室内空間へのさらなる緑の活用を ～「オフィスグリーン条例」の推奨～

日造協理事  
東光園緑化(株) 代表取締役社長  
田丸 敬三



最近、都会の商業施設や集合住宅の周囲は多くの緑地空間を設け、緑被率がその建物の付加価値としても注目されるようになりました。室内においても大型のショッピングモールなど壁面緑化や大型のコンテナを活用したインドアグリーンによって人々に安らぎを与えてくれます。

さて、室内の私たちの就業環境・生活環境を考えてみましょう。特に空調設備の発達した熱効率の良い高層ビルを見ると、強制換気機能が付いており窓が開けられない閉鎖空間となっています。数年前から建築材やパソコンやコピー機などの OA 機器から様々な有害化学物質が発生し、室内の空気が汚染されそれが起因となってシックビルディング症候群(シックハウス症候群)などの健康被害の一因となっている事が問題視されています。また、厚生労働省は一定の建築物には『建築物環境衛生管理基準』を設け、ホルムアルデヒドなどの人体に有害な揮発性有機化合物(VOC)や浮遊粉じん量、一酸化炭素・二酸化炭素の含有量などを管理しなければならないように義務(努力義務)化しています。そのために強制換気により室内の空気は大気に放出されてしまいます。つまり、室内は住みやすい・働きやすい環境に改善されているものの、有害化学物質を大気にまき散らしているというのが実態です。

そのためにはやはり植物の力を借りることが大事なのです。1980 年に N A S A が、植物がホルムアルデヒドを除去する効果があることを発見してから様々な植物を用い実験を重ね、特に空気浄化の高い植物を『エコプラント』と

名づけました。とりわけ観葉植物は効果が大きいようです。

植物が光合成によって有害物質を取り込むと、根の周りのバクテリアなどの微生物が物質を分解し、そして栄養源にし、空気が浄化されます。また、周辺の空気が乾燥すると蒸散作用により空気中の湿度のバランスを保とうとする性質を持っています。さらに、カビなどの活動を抑える化学物質をも出していることもわかりました。温暖化対策としても高層階では設置が難しい「緑のカーテン」の代わりに窓辺に植物を並べることによって、室内の温度上昇を緩和することも出来ます。他にも緑が生活空間にあることによって、生活空間でのストレスが軽減され、作業効率が上がる事が様々な心理的效果に対する研究で実証されるようになりました。

このような、植物の様々な恩恵(効用)を生かすために、ある都議会議員の方が東京のオフィスに室内緑化を義務づける「オフィスグリーン条例」を提唱されています。前述の効果の他にも室内緑化を推進することによって、樹木・観葉植物・花苗などの需要が増え、植物生産産業の経済効果はもちろんのこと、造園業そして植物リース業にも波及し、雇用促進の小さなきっかけにもなります。観葉植物の生産は、沖縄はもとより、指宿、愛知県の三河地域、そして意外なことに、東京の伊豆七島の特に八丈島などが盛んですが、近年の重油の価格高騰の影響で温室などの温度管理に非常に苦慮されていると聞きます。

このような小さな運動がきっかけとなり東京発の「グリーン・ニューディール」となることを期待しています。

### 7/1～7/7 準備期間 6/1～6/30 全国安全週間に向けて

平成 25 年度全国安全週間は 7 月 1 日～7 日に実施、準備期間は 6 月 1 日～30 日となっている。

全国安全週間は、労働災害防止活動の



推進を図り、安全に対する意識と職場の安全活動のより一層の向上に取り組む週間で、昭和 3 年に第 1 回が実施されて以来、一度も中断することなく続けられ、本年で第 86 回となる。

今年のスローガンには、「高めよう一人ひとりの安全意識 みんなの力でゼロ災害」が掲げられている。

労使が協調して、労働災害防止策が展開され、労働災害は長期的に減少してきたが、平成 22 年度から 3 年連続で死傷者数が増加し、憂慮すべき事態となっている。この機会に職場における労働災害防止活動の大切さを再確認し、積極的に安全活動に取り組みましょう。

## 事務所移転のお知らせ

日造協本部は、事務所を移転します。  
【業務開始日】  
平成 25 年 7 月 8 日(月)  
【新住所】  
東京都文京区本郷三丁目 15 番 2 号  
本郷二村ビル 4 階  
※電話、ファックス番号は従来通り

平成 25 年度

## 通常総会

講演会・意見交換会

6 月 24 日(月) 14:30～

グランドアーク半蔵門

東京都千代田区隼町 1-1

☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。



特集 日造協・技術委員会の取り組みについて 技術委員長 卯之原 昇

昨年的一般社団法人への移行を契機に協会内も大幅に組織の見直しが行われ、技術委員会の所管であった資格制度の部分が切り離され資格制度委員会へ移行されました。

技術委員会には、委員会全般を検討・調整する技術企画部会のほかに、表1に掲げる5部会を軸に活動しております。

また、全国からの委員は各総支部の技術委員長に依頼し、技術委員会の活動をご理解いただきながら、総支部、支部の提案・要望や活動を共有し、本部・総支部・支部が連携し、一体となって取り組む体制で委員会活動を行っております。

●技能五輪部会

昨年は第50回技能五輪国内大会が、長野県上諏訪で開かれ、造園競技は青年

技能者19組38名が参加。成績優秀者の中から、長野県の湯本 光君（信州緑地・当協会員）と鈴木 幸さん（第一緑地）の男女ペアが7月2日から7日までドイツで行われる第42回技能五輪国際大会に出場します。

また、今年度の第51回技能五輪全国大会は、11月22日から25日まで幕張メッセを主会場にて関東地区で開催。造園実技競技は23日・24日江東区木場公園にて1人作業で、2日間（11時間）で課題を作成して技能を争います。

○全国造園デザインコンクール

昭和49年から始まった全国造園デザインコンクールは今年第40回を迎えます。これまでの入選作品集を作成するなど、さらに会員及び教育機関の教材と

して利用していただけるよう取り組みます。

○街路樹、公園緑地樹木の育成管理

1999年「街路樹剪定士認定制度」が設立され、現在までに1万人を超える資格者が活躍しています。資格の活用もひろがり、国、地方自治体を中心に特記仕様書や入札参加条件や総合評価等へも記載されるようになっていきます。

近年は台風、大雨や樹木の老木化、腐朽による街路樹の倒木・枝折れ等の被害が多くなり、剪定だけでなく樹勢・危険木の見極めや対応等の提案も重要な職務となっています。

平成24年4月に国土交通省から公園施設長寿命化計画策定指針（案）が出されました。

●技術・技能部会の活動 部会長 松本 透

技術・技能部会の主な活動は造園本来の技術及び技能の継承、発注者が編集する工事共通仕様書の改訂案作成、資格委員会への協力などが挙げられます。

昔の職人が当たり前に行っていたことが、現在は行われていないことが多く見受けられます。

このような危機感から、継承活動としては、今までに技術継承モデル構築支援事業として「移植編」、「石組み編」のDVDビデオの作成をはじめ、「石積、石張のポイント」をまとめた講習用CDも作成しました。

さらに技術共有発表会では、「伝統工法による江戸城の石積復元工事」を発表

技術委員会では、長寿命化計画に基づく公園樹木の管理に必要な知識と技術を持つ専門的造園技術者の養成に向けた準備を進めています。

○植栽基盤診断士

植物が良好に生育するために必要な、植栽土壌の整備に係る総合的な知識と卓越した技術力を持つスペシャリストが「植栽基盤診断士」であり、植物の根が支障なく伸長し、水分や養分を吸収する条件を備えた植栽基盤を確認するために、土壌断面、土性・土色、土壌硬度、透水性、pH、EC等の知識や調査・診断・処方能力を持ち提案力、説明力が求められます。

現在までに全国で1000人を超える植栽基盤診断士が認定されており、技術委員会では更なる技術の向上と植栽基盤整備技術の情報共有化を図るため検討を進めています。

しました。今年は「配植技法」をテーマにハンドブックの作成を考えております。

工事共通仕様書については改定案を作成後、国交省と意見交換会を開き、施工会社のヒアリングによる現場での問題点を述べながら、設計変更の円滑な施行を含め活発な意見交換を行いました。国交省には定期的な開催を求め、少しでも円滑な現場施工ができればと考えております。

土木とは違う造園でしかできないものは何なのかを考え、それに必要な技術・技能を持った人を育てる呼び水になることが当部会の役割と考えています。

●技術情報・研修部会の活動 部会長 伊藤 幸男

技術情報・研修部会のメインイベントは、毎年緑化フェア開催県で開催してきた「技術情報共有発表会」です。

本協会の会員企業は日本の造園建設業の先頭集団ですが、これまで会員間の技術情報はほとんど流通していませんでした。しかし、造園業は建築や土木業とは違い、地域性もありその風土特有の植物の扱いを長年積み上げてきたものがあります。それぞれの地域特有の技術共有化

と業界としての技術標準化を図ることによって、業界の財産とし、専門技術集団としての差別化ができます。

この会は、業界内の競争と他業界との競争双方に有効なイベントとして企画したものです。2013年は、10月4日に鳥取市で技術情報共有発表会を予定しています。

ぜひ、多くの技術者に積極的に参加をお願いいたします。

●安全部会の活動 部会長 鈴木 義人

安全部会は、昨年の組織改革により新たに発足した部会です。造園工事の施工管理における安全対策についての情報を収集・取り纏めて発信しております。

今年度の活動予定は、第一に「造園安全作業のしおり」の改訂・発行および「造園安全衛生管理の手引き」の編集作業です。これに加えて、最近発生した事故をうけて「現場施工時以外の安全」についても検討することになりました。その事故とは、当協会会員企業が剪定枝を清掃工場に持ち込んだ際に、作業員が誤ってダンプのあおりとともにバンカー内に転落したのです。さらに連続でダンプのあおりをバンカーに落とすというミスが発

生いたしました。

第二に、高所作業車やツリークライムによる剪定作業に関する安全機材、先進的な造園技術の事例収集、工事仕様書等の改善に関する検討を行います。

また、労働災害や第三者への危害等による事故の防止活動に取り組むと共に、会員企業が使いやすい日造協団体保険制度の見直しを行い、さらに普及すべく活動します。部会一同努力して参りますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後に、先日はお忙しい中「造園工事・維持管理業務等の事故」に関するアンケートにご協力をいただきまして、有難うございました。

●調査・開発部会 部会長 中村 秀樹

調査・開発部会の主な活動としては、「（仮称）公園緑地樹木剪定士」資格認定制度の創設と「チップ及び堆肥化のガイドライン」の改訂作業を行っております。まず、「（仮称）公園緑地樹木剪定士」資格認定制度ですが、公園緑地樹木は統一美を追求する街路樹と異なり、植栽の目的や機能は千差万別であり、それぞれの場にふさわしい剪定を行う必要があります。また、植栽の目的によって管理レベルも異なることから、街路樹のように「基本剪定」と「軽剪定」で対応することはできません。

さらに、「公園施設長寿命化計画策定指針（案）」で示された安心・安全な緑景観の創出についても、重要な課題の一つとして取り組んでいかなければなりません。そこで、これらに対応できる優れた技術・技能を有した方々を「（仮称）公園緑地樹木剪定士」として認定しよう

というもので、現在、その基本となるテキストの編集作業を進めております。

次に、「チップ及び堆肥化のガイドライン」の改訂ですが、発刊後10年近くが経過し、その間、リサイクルに対する認識や対応も大きく変化しています。

造園施工業界が発生源である剪定枝葉は、適切に処理すれば有用な資源であり、リサイクル堆肥として安心して使っていただくためには、顧客の立場に立った品質管理基準を設ける必要があります。

そこで、「（仮称）剪定枝葉等リサイクルガイドライン」に名称を改め、基準の明確化を図るとともに、申請のあった製品について審査し、日造協として認定しようというものです。

以上、調査・開発部会の活動概要を述べましたが、これらに関し会員皆様からのご意見、ご要望をいただければ幸いです。

学会の目・眼・芽 第46回  
公益にふさわしい学会誌を目指して  
(公社)日本造園学会幹事・東京大学空間情報科学研究センター助教 雨宮 護

平成23年から公益社団法人日本造園学会の編集委員会の幹事を務めさせていただいております。編集委員会の主な仕事は、学会誌「ランドスケープ研究」の編集。毎号の厳しい工程のなかで、ご寄稿いただいた著者の思いに応え、会員各位に有益な情報をお届けすべく、日々手を動かしています。

今期の委員会は、東日本大震災が発生し、さらに学会の公益社団法人への移行期であった、平成23年から活動を開始しました。社会が未曾有の事態に直面するなかで、学会の「顔」として、誌面を通じて何を「公益」として生み出すことができるかを強く意識するなかでのスタートでした。今期の委員会は、期を通底するテーマとして「復興支援」を掲げ、学術誌ならではの情報発信という形で、地道な息の長い支援活動を行おうとしています。会員に加え、これまで以上に非会員による執筆記事を設け、学際分野であるランドスケープならではの魅力が伝わる構成にするとともに、気軽に読めるコラム記事も増やし、広く親しみやすい学会誌となるような誌面構成に務めています。

誌面からいくつかの内容をご紹介します。

各号のページの多くを占める「特集記事」は、編集委員会がその時々において世に問う必要が高いと判断したテーマに基づくものです。最新号の特集は、「ランドスケープが描く幸福論」です。これは、「幸福」のかたちが再び経済的価値に回帰していくなかにあって、世の中の森羅万象の「つながり」を読み解くことのできる能力（ランドスケープリテラシー）を育むことで、どのような新しい「幸福」の輪郭を描くことができるかを問いかけようとする試みです。

また、各号にはコラム的な記事も掲載されています。「復興のランドスケープ」は、その名のごとく、全国の震災

からの復興の風景を伝えるものです。研究者だけでなく、現地で活動する学生やNPO、地元の住民の方が執筆者となり、各地で展開される復興への力強い活動をリアルな言葉で伝えていきます。「恩師からのバトン」は、ランドスケープに関わる研究者や実務者の系譜に焦点をあて、現役世代を担う第一人者たちが、恩師からどのような教えを受け、それをどのように咀嚼し、後進に伝えようとしているのかが記載されています。執筆者たちの、恩師への感謝と、後進への熱いエールを読み取ることができます。「海外の造園動向」は、日ごろ触れることの少ない、海外におけるランドスケープ事情を紹介するものです。「生きもの技術ノート」には、生態学における最新のトピックが掲載されています。

学会誌が果たすことのできる公益のひとつは、今の社会が気づいていない視点や考えを提供することで、社会に新しい議論を喚起することだと思います。例えば、最新号の「幸福論」では、ランドスケープと幸福の関係という、現在の社会が見過ごしそうになっている視点を提供しようとする試みです。そして、これは、ランドスケープに関わる人々にも、各々の仕事の意義に改めて気づいていただく試みでもあります。お読みいただいた方に気づきをもたらし、議論を喚起させ、日々の仕事に新しい意味や価値を見いだしていたく。そして、それがやがて、震災復興に際しても、学会にしかできない支援になっていく。そのことを目指して、編集委員会は、活動を続けています。

「ランドスケープ研究」をぜひご一読いただければ幸いです。学会誌が発する情報が公益にふさわしいものであるためには、社会からの批判を受けることが大切です。日造協の皆様からの、感想やご意見、ご批判をお待ちしています。



# 2013 順天湾 (Suncheon bay) 国際花博覧会視察報告

一般社団法人日本造園建設業協会 技術調査部長 野村 徹郎

2013 順天湾国際花博覧会視察ツアーは、順天湾国際庭園博覧会、広大な湿原が保全されている順天湾ビジターセンター、2012年に開催された麗水万博跡地利用状況、ソウル市役所、東大門デザインセンター、都市高速道路を撤去して再生された清溪川などを視察し、全国各地から発着できるツアーを提供しようという国際委員会の企画により、2013年4月19日から22日にかけて募集した結果、羽田発着で11名の参加者により実施した。

## 順天湾国際花博覧会とは

AIPH (The International Association of Horticultural Producers: 国際園芸家協会) が認定する国際園芸博覧会として、韓国では2009年のFloritopiaに続き2回目の開催となるA2/B1クラスの博覧会で2013年4月10日から10月20日まで開催される。

博覧会のテーマを「地球の庭園、順天湾」として計画され、開催地である順천시は、地球上でもっとも完全に保全されている世界5大沿岸湿地である順天湾と共に、世界の生態庭園を保有することになり、韓国の代表的な環境配慮型生態都市、グリーン成長の先導都市として発展していくことを目指している。会場は、中央をながれる東川の左右に樹木園ゾーン、湿地センターゾーン、世界庭園ゾーン、湿地ゾーンで構成され、随所にエコを感じさせる施設や展示が行われている(図1、写真1)。



図1 博覧会会場の位置



写真1 シンプルなゲート

博覧会の詳細は <http://jpn.2013expo.or.kr/> (日本語サイト)

## 韓国と日造協

日造協は、国際園芸博覧会の認証機関であるAIPHの日本代表会員機関であるとともにアジ



写真4 博覧会会場ゲート前で集合

ア地区の代表会員であり、和田副会長が、AIPH副会長、博覧会認定などを行うマーケティング委員長を兼務している。

2010年に順천시で行われたAIPH総会では整備前の会場予定地を視察した際にも、会場計画や運営企画にアドバイス等を行ってきた。その後も会場整備が進むにつれ多くの質問が寄せられた。また、昨年冬には順천시市長が日造協を訪問され、藤巻会長も交えて歓迎し、博覧会の成功にむけ祝杯を挙げた。

## 博覧会会場の視察

AIPH koreaとの事前連絡により開会前日の公式イベントであるオープニングや祝賀セレモニーに招待され参加した。

AIPHの主要メンバーも列席して行われたセレモニーは、かなり寒い状況にもかかわらず、市民祝賀イベントとしてにぎわっていた。

イベント会場の芝生広場前の池と水路をステージとしたパフォーマンスでは、韓国伝統の音楽と装束で船に乗って現れた賢人や、伝統的な踊りなどが披露された(写真2)。



写真2 伝統的衣装をまとったパフォーマンス

翌日は、あいにくの雨であったため、予定を変更して午前中は順天湾のビジターセンターに向かった。

ラムサール条約に登録されている広大な湿原が保全されたエリアには、季節ごとに多くの渡り鳥が訪れ、日本からもナベヅルなどが渡るといふ。干潟には有明海のムツゴロウとそっくりな魚が生息しや漁法もあるようだ。

湿原は草の群落に覆われ、円形に集合した広大な草原は季節によって色を変える(写真3)。



写真3 順天湾の芦原  
順天湾の詳細は、<http://www.suncheonbay.go.kr/japanese/html/main/main.jsp>

午後からは雨もほとんど止み、博覧会場の視察をすることが出来た(写真4)。

ゲート近くの造園技術パビリオンでは、造園や園芸の新製品に混じって、日本の園芸雑誌や盆栽に人が集まっていた。

屋内庭園パビリオンでは、日本庭園も出展されていたが、残念なことに出展者の情報が少なく、パンフレットも手の届かないところにおかれていた(写真5、6)。



写真5 山紫水明をテーマにした鹿沼市の屋内庭園



写真6 鶴の飛来地と武家屋敷郡で有名な出水市の出展

屋外の造園は、施工期間が短かったにもかかわらず大きな樹木が植栽されている。とくに数百本が植えられたメタセコイアの並木はよくそろえたものだと思う(写真7)。

ここで使われている地下支柱は、杭型支柱といい地中深く埋めて樹木同士をつなげる特許製品とのことである。

池や流れが取り入れられた会場の中央部にある丘は、通路が二重螺旋に設置されているため、来場者が上り下りする列は左右逆方向に歩くことになり、色とりどりの洋服が緑の芝生を背景にした動きのあるランドスケープデザインとして興味深いものであった(写真8、9)。



写真7 みごとなメタセコイア並木



写真8 開園初日に開花させている



写真9 人の動きもデザインの一部となっている

国際出展エリアには、佐賀県、高知県の庭園が出展され、日本の庭園デザインに多くの来場者が関心を寄せていた(写真10、11)。

博覧会の会場計画や企画展示は非常に優れたものがあり、平日にもかかわらず多くの入場者でにぎわっており、目標入場者数800万人のところ、5月29日時点ですでに156万人以上の入場者を記録している。

## プロフェッショナルツアー 造園事情視察

順天から高速鉄道でソウルまで3時間あまりの旅の後、ソウ



写真10 高知県の出展庭園。なぜか飛び石を踏まない人々



写真11 佐賀県の庭園出展。長屋門

ル在住の韓希姫氏の協力によりソウル市内の造園技術や造園工事現場を視察した。

韓さんは都市緑化機構に在籍していたこともあり、以前から日韓の造園技術の交流に貢献してきた方である。

ソウル市役所の壁面緑化、施工中の東大門デザインセンター、清溪川など視察先では詳しい説明を受けることができ、参加者からは活発な質疑応答がされていた。

ソウル市役所は、旧市庁舎を保存しつつガラスに覆われた全く新しい建物を密接して建設されたもので、旧市庁舎はジャッキアップされたまま地下部分を施工するという特殊なフローティング工法がとられたそうである。

屋内の壁面緑化は、ポトス、サンゴジュなど14種類約6万5千本が植栽されており、ギネスブックに登録されたほどの規



写真12 新都市市庁舎のイメージ



写真13 ワンショットでは収まらない壁面緑化



写真14 高速道路を撤去して再生された清溪川



写真15 屋上の植栽パターンデザイン



写真16 韓国の女性造園技術者



福岡県久留米市田主丸町は、ヒナモロコが生息する自然環境に恵まれた町です。

筑後平野の中心部に位置し、南は東西 30km に連なる耳納連山と阿蘇外輪山に源を発し、大分、熊本、福岡、佐賀の 4 県を潤し、有明海に注ぐ全長 143km の大河「筑紫次郎」の名の筑後川中流に挟まれた町です。

耳納連山の最高峰鷹取山（標高 802 m）は、本町の南端にあり、これを頂点に断層山脈特有の急な傾斜をもって山麓に至り、上より人工造林地帯、果樹園芸、植木、苗

木の生産地帯を構成しています。

これよりなだらかな勾配をもって筑後川の川岸に達し、その間に豊穡な筑後平野の沖積層地帯が広がり、水田耕作農業、苗木、植木、蔬菜園芸など本町の中核産業が展開され、商工業地帯とともに中心部をなしています。

耳納連山から吹き下ろす風を利用して、スカイスポーツも盛んでハンゲライダー、パラグライダーの選手権大会が頻繁に開催されています。

他に河童伝説が数多くあります。河童の里は全

国でよく見かけますが本町の河童もおっちょこちょいで力持ち、恩義を忘れず、色気もある…と、平家落ち武者伝説と重なり合い様々な話が伝えられています。

至るところに河童の像があり、J R の田主丸駅まで河童に仕立ててしましました。

田主丸町はヒナモロコの国内唯一の野生生息地です。体長わずか 6 ～ 7 センチのコイ科の淡水魚で、淡褐色のメダカによく似た魚です。日本では北部九州の福岡市・博多湾と有明海に注ぐ河川にしか生息例がありません



田主丸町の位置



「河童相撲」など数多くの伝説が残る



河童に仕立てられた JR 田主丸駅



全長 143km の大河「筑後次郎」



絶滅とされていたが 1994 年に発見された「ヒナモロコ」でした。太古に九州と大ら絶滅したと伝えられて陸が地続きだった事を示す貴重な「生き証人」なのです。

かつては珍しい魚ではありましたが、小川や池が激減したことか



耳納連山でのパラグライダー然型工法に切り替えました。

最後に田主丸町の特産品を紹介します。植木苗木は超特産品です。フルーツの町としても柿、ぶどう（特に巨峰ぶどう）があり、季節毎にフルーツ狩りも楽しめます。

胡麻焼酎の「紅乙女」そして、「巨峰ワイン」の里でもあります。

福岡においでの際はちょっと足を伸ばして、田主丸に「寄ってくれん」。

内山緑地建設株式会社 松本 吉廣

## 日造協賛助会員の紹介 51 C・S・B(株) 子どもの創造性を育てる砂場の浄化方法を開発

子どもにとって、砂場は一人で遊んでも、集団で遊んでも飽きることのない、いかなるおもちゃよりも優れた遊具といわれています。

その遊具が砂漠化し、小動物の糞尿に汚染され、社

会問題となりました。

砂場は子どもの創造性を育てる大事な遊具です。

未来を担う子どもたちのために、保育園・幼稚園・公園の砂場の浄化方法を開発いたしました。

「A A A 砂場浄化方法・

特許 4925444 号」を取得し、「A A A」の意味は、「安全・安心・遊びやすい」の意味です。

C・S・B(株) 埼玉県新座市野火止 6-17-25、TEL:048-482-1211、FAX:048-482-1844、URL: http://csb.gog.co.jp/



砂場浄化の作業風景（左）、砂場浄化イメージ（中）、作業終了後のようす（右）

## 〈ご案内〉日造協の団体保険制度 申込締切迫る

日造協団体保険制度は、昭和 57 年に設けられ、団体のスケールメリットを活かし、一般契約の約 8 割から 9 割となっており、割安な保険料で加入でき、広く会員に利用されている。

### 事務局の動き

- 【5 月】
- 8 (木)・総務委員会（広報活動部会）
  - 9 (木)・運営会議
  - 10 (金)・第 1 回植栽基盤診断士認定委員会
  - 13 (月)・技術委員会
  - 14 (火)・技能五輪運営委員会、競技委員会合同会議
  - 15 (水)・技術委員会（安全部会）
  - 16 (木)・褒章伝達式・事業委員会
  - 17 (金)・総務委員会（財政・運営部会）

団体保険のメニューは、①政府労災上乗せ補償制度（労災総合保険）、②第三者賠償責任補償制度（賠償責任保険）、③工事対象物補償制度（土木工事保険）の 3 種。労災総合保険は、経営事項審査で 15 ポイントが加算される。

申込締切は、継続加入が 6 月 25 日、新規加入が 7 月 13 日となっている。

- 18 (土)・全国「みどりの愛護」のつどい
- 21 (火)・国際委員会・アクションプログラム推進等特別委員会・監事監査
- 22 (水)・国交省公園緑地・景観課との意見交換会（技術委員会）
- ・総務委員会
- 23 (木)・運営会議
- 29 (火)・総支部長等会議・第 1 回通常理事会
- 30 (水)・社会保険等未加入対策講習会（四国総支部）

## 『鳥取流緑化スタイル』の発信

谷尾 壽嗣 (株)谷尾樹楽園

本年度開催されます第 30 回全国都市緑化とっとりフェアについてご紹介したいと思います。

9 月 21 日から 11 月 10 日までの 51 日間にわたり、日本一大きいと言われます湖山池をメイン会場に「ともに育てる身近な緑」をテーマに開催されます。

大きな特徴として、世界ジオパークで開催される初の都市緑化フェアであること。また、『鳥取流緑化スタイル』の発信として、地域にある身近な自然をナチュラルガーデンという形で生活空間に取り入れ、普段の暮らしをより楽しく豊かにする鳥取の庭づくりのスタイルを発信します。

現在、ガーデンデザイナーのポール・スミザー氏の監修の下に、メインのナチュラルガーデンゾーンは工事の真っ最中で、身近なものと鳥取の風土に合う植物を植栽中です(樹木 70 種類・約 2400 本、

草花 104 種・約 25,000 株)。かなり身近な雑草、樹木まで設計に取り入れられており、生産及び調達に大変な苦労を要しています。

低木、地被類など、今までの緑化で使用する植物に、今まで使われなかった身近な植物を追加することがナチュラルガーデンの大きな特徴（低木の使用は少なく草花が多い）であり、新しい緑化スタイルになっていると思います。

「自然風」といわれる技法、手法はたくさんありますが、ぜひ一度、来場し、緑化工法の切り口の一つとして参考にさせていただきたいと思います。

県人口が最も少ない鳥取県ですが、「県民がつくるフェア」として、県民が企画段階から参画・参加し、フェアを盛り上げています。鳥取の地で会員の皆さまにお会いすることを楽しみにしています。多数のご来場をお待ちしています。

### 【6 月】

- 1 (土)・まちづくり月間～ 6/30
- 4 (火)・社会保険等未加入対策講習会（近畿総支部）・技術委員会（調査・開発部会）・緑の環境デザイン賞表彰式、祝賀会
- 5 (水)・総務委員会（広報活動部会）
- 6 (木)・日本造園建設業厚生年金基金理事会・日本造園建設業厚生年金基金代議員会
- 14 (金)・総務委員会（社会保険未加入対策部会）
- 19 (水)・国交省公園緑地・景観課との意見交換会
- 24 (月)・通常総会、講演会、意見交換会

・地域リーダーズ勉強会～ 6/25

### 委員会等の活動

- 技術委員会 報告事項、事業計画等について審議した（5/13）
- 事業委員会 報告事項、事業計画等について審議した（5/16）
- 総務委員会 理事会提出議案等について審議した（5/22）

**編集後記** 植物を生業とする者としては恵みの雨のはずですが、梅雨の時期はやはり憂鬱です。さて、我々編集メンバーは「月刊日造協」が充実した機関紙になるよう、色々と企画を考えています。皆様のご意見等も聞かせてもらえるとありがたいです。

New クラウド連動型エクステリア・外構・造園・設計用オーセブン 3DCAD「イーキャド」

eE-CAD10

ユーザー様の IT 化へ、これが仕事のスタート画面です。

New エクステリア情報アプリ（無料）

ゼロナナ・ビューワー

07Viewer

Available on the App Store

free Download

iPad版DLはこちら

Windows版DLはこちら



タブレット端末の小型化、軽量化で利用者が増え続ける iPhone や iPad。eE-CAD10 は、これら端末機器を使った 07Viewer との連携を強化。社内のスケジュールや現場の進捗、ホームページの更新や図面の仕上がりを出先で確認することができます。エクステリア・シミュレーター「ネットプラ 10」も無料でご利用頂けます。



07 オーセブン株式会社

E-mail: 07inet@o-seven.co.jp

オーセブン 検索

本社・〒 338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西 6 丁目 4-14 Tel:048-840-1577 Fax: 048-840-1579 関西支・〒 532-0003 大阪市淀川区宮原 4-1-45 新大阪八千代ビル 3F Tel:06-4807-7737 Fax: 06-4807-7727

住宅・リフォーム・エクステリア・外構・造園 ポータルサイト「イトコ」

e-toko

イトコ 検索

※Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。※iPad,iPhone,iPod touch は Apple Inc. の商標です。